



亀岡市サッカー協会

会長：吉田龍一



私ども協会の亀岡市におけるサッカーの歴史は古く、昭和16年綾部で開催された京都府下実業団蹴球大会に荒木泰詔（初代会長）を中心に教員のサッカー愛好者でチームを編成し、悪戦苦闘の末見事優勝旗をこの亀岡に持ち帰った。以来35年間、教員のチームは存続し他郡との試合も行われ盛んでした。

昭和30年亀岡市発足当時においては、会社や警察関係者でサッカー協会設立の声はあったものの発足には至らなかった。

昭和48年京都学園大学体育教員として山下哲（現副会長）が赴任し、サッカー部の指導を指導し、急速に成長した。そうした京都学園大学の卒業生が中心となり亀岡高校OBと共に、協会設立への機運が熟し、昭和51年に市役所、日本スピンドル、亀岡警察、日本コンデンサー、FCカメオカ、古城クラブ、亀岡高校OBら各代表者が相集い協議を重ね7月11日に待望の設立となり、同日設立記念大会を開催した。

続いて昭和52年6月15日に亀岡市体育協会より正式に加盟承認され、同年9月に小学生を対象としたサッカースクールをスタートさせ、地域にサッカーを普及させる一歩となった。昭和54年10月1日、日本スポーツ少年団に認定され、（公財）日本サッカー協会に登録するに至る。行政と協会とが協力・協調した事業である地域総合型の草分けであったように思われる。その事が亀岡市におけるサッカーの普及活動に輪をかけて広がっていき、地域や各学校にサッカー教室が生まれ、多くの子供達にサッカーを楽しむ環境を作り出した。一方、高校では昭和54年南丹高校が開校し、同時にサッカー部も創部され、亀岡学校と2校となり、切磋琢磨するなかで、平成20年2月の新人戦京都府大会において初めてベスト4に進出した。

同年11月1日市2町（口丹波）社会人リーグの火ぶたをきり、昭和55年4月には中学生教室も開設した。

そうした協会事業の展開の中、シニア世代の生涯スポーツとして、平成15年4月シニアリーグ開設した。

日本プロサッカー「Jリーグ」が発足して3年が経過した頃、亀岡市には中学生のニーズに応えられるものがなかったことから、平成9年4月亀岡フットボールクラブスポーツ少年団（U-15）設立に至る。

以来、現在加盟登録チームも「1種 一般（社会人）（シニア）社会人16チーム、シニア6チーム、大学1チーム」「2種（高校生）2チーム」「3種（ジュニアユース）」「4種（少年団・教室）少年団3チーム、小学生7チーム」選手登録総数は数1,000名近くの大所帯の中、21名の役員が1つになり、口丹波地域におけるサッカーの普及および発展と会員相互間の親睦・協調を図ることを目的とした活動を進めています。